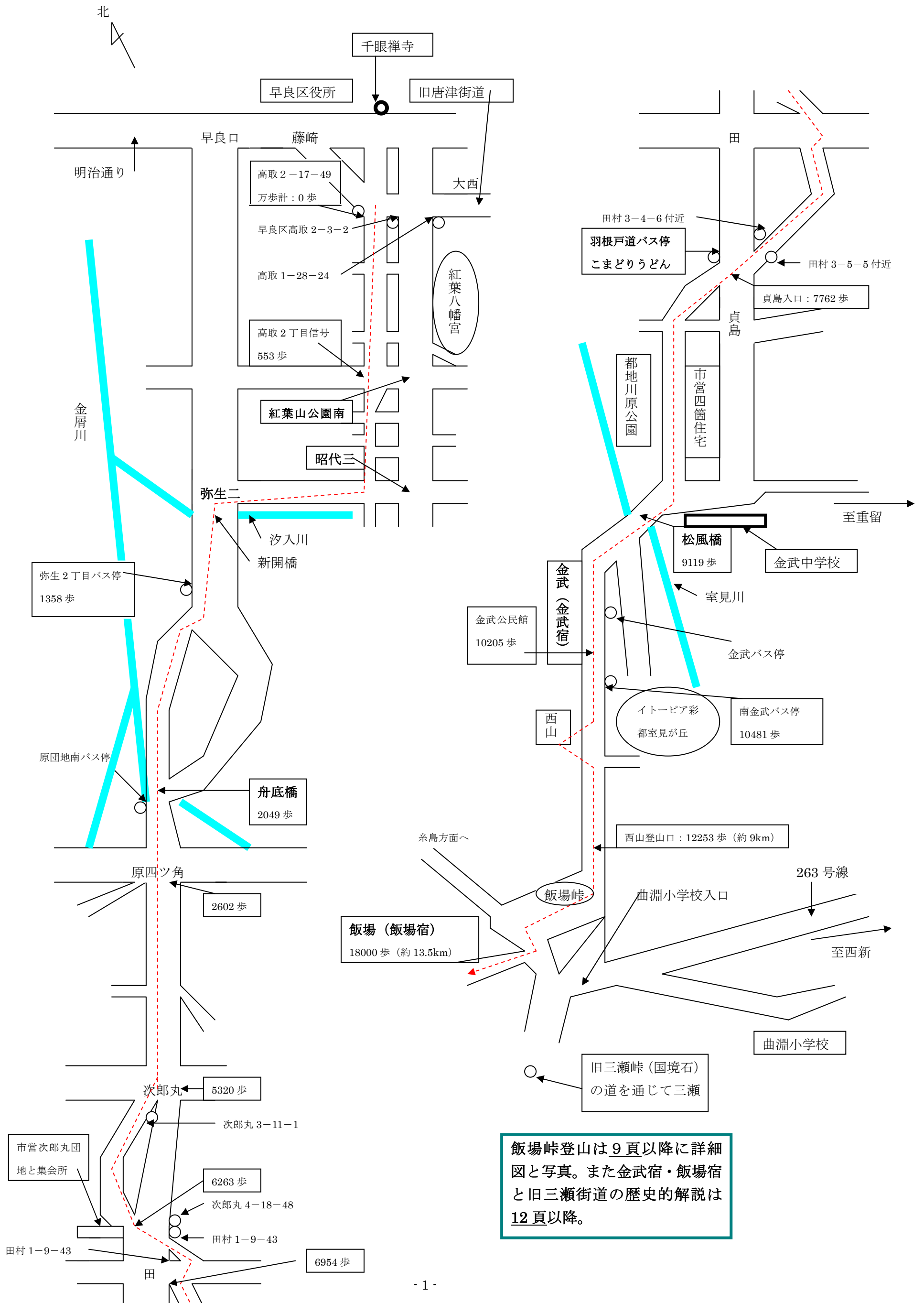


旧三瀬街道



飯場峠登山は 9 頁以降に詳細図と写真。また金武宿・飯場宿と旧三瀬街道の歴史的解説は 12 頁以降。

(高取 2 丁目付近抽出)

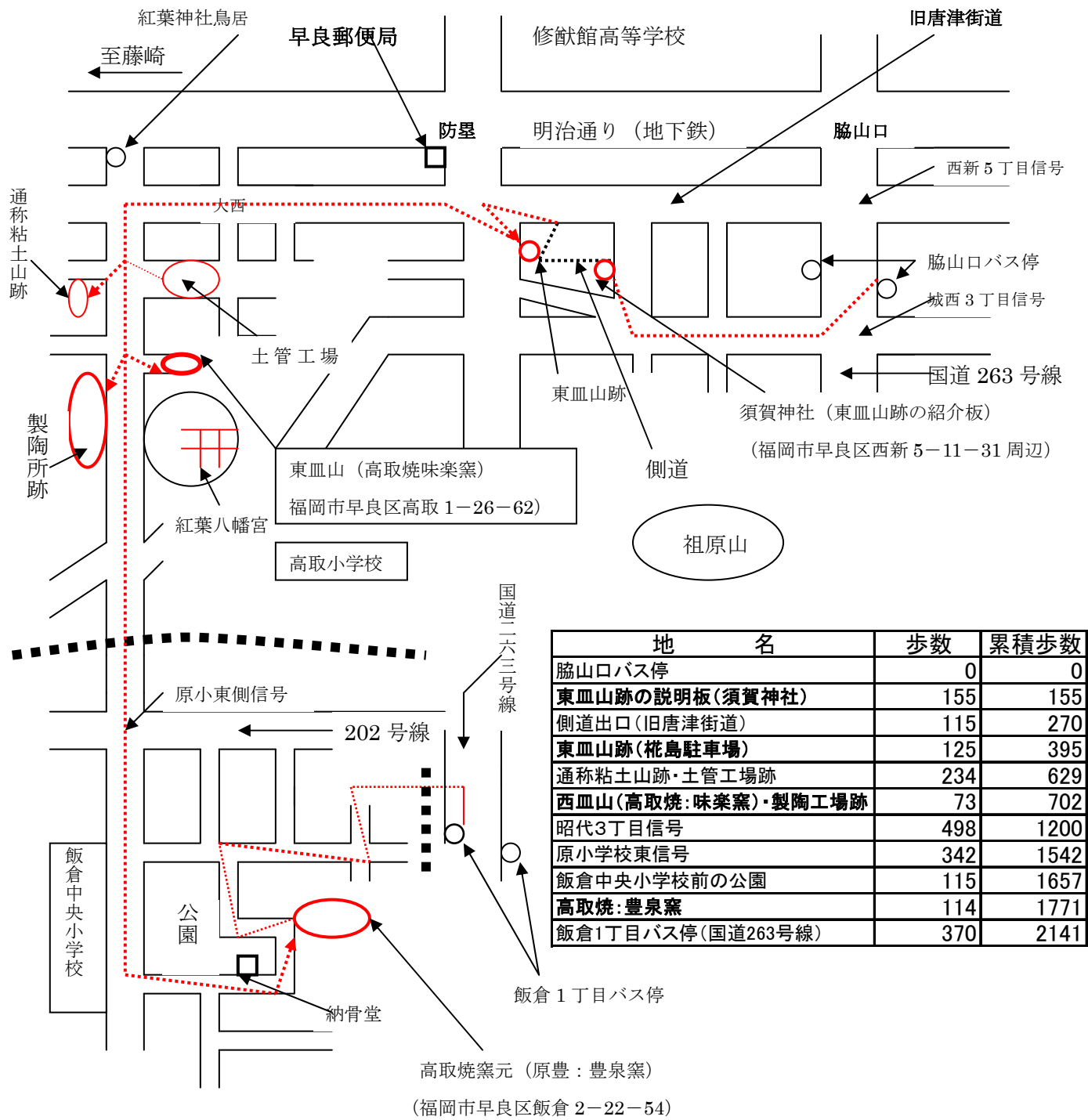
現在の東皿山跡と西皿山跡の一部

東皿山 (福岡市早良区西新 5-11-31 周辺)

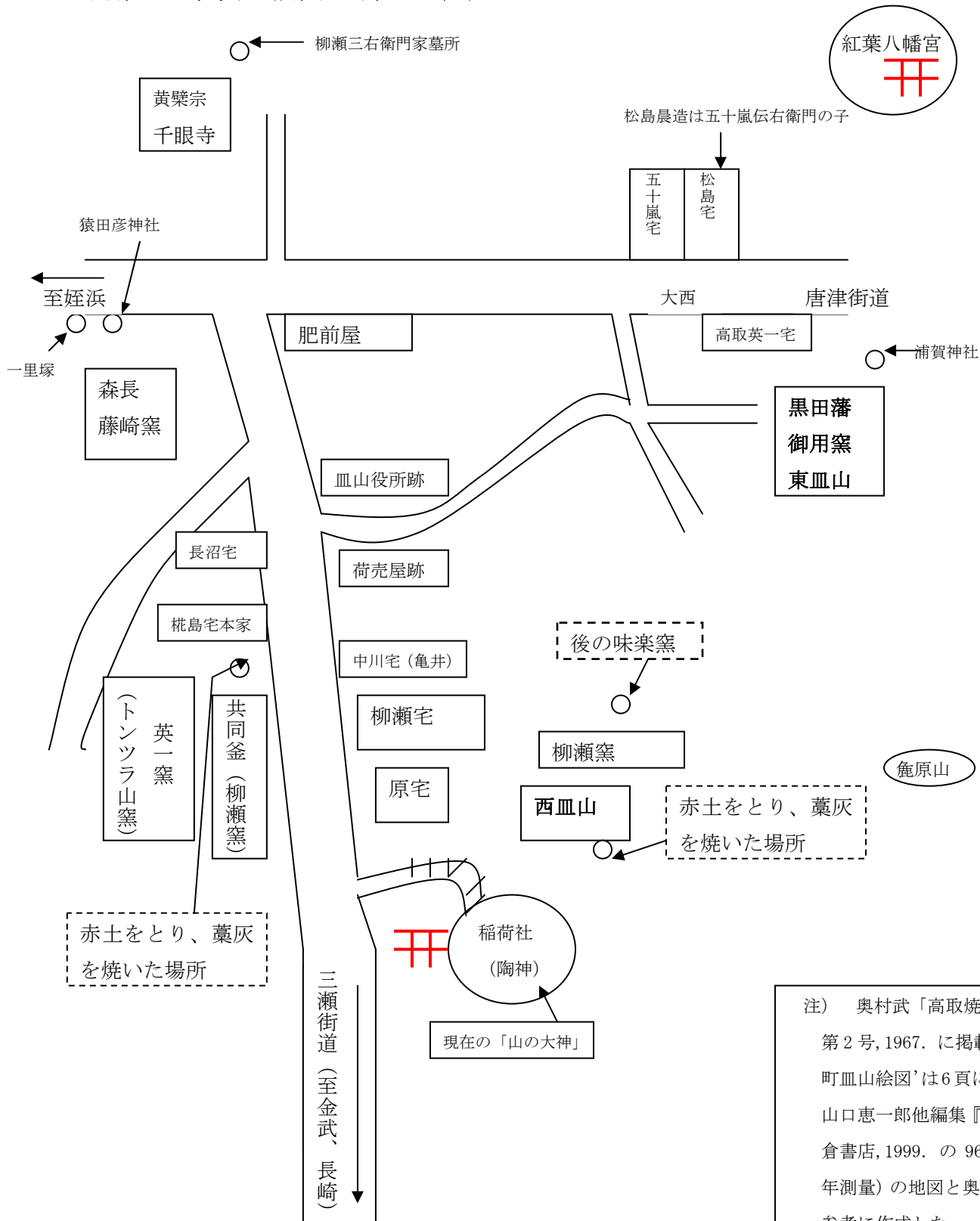
西皿山 : 高取焼味楽窯 (福岡市早良区高取 1-26-62)

西皿山 : 旧製陶所跡 (福岡市早良区高取 2-5-4 周辺)

西皿山 : 高取焼豊泉窯 (福岡市早良区 2-22-54)



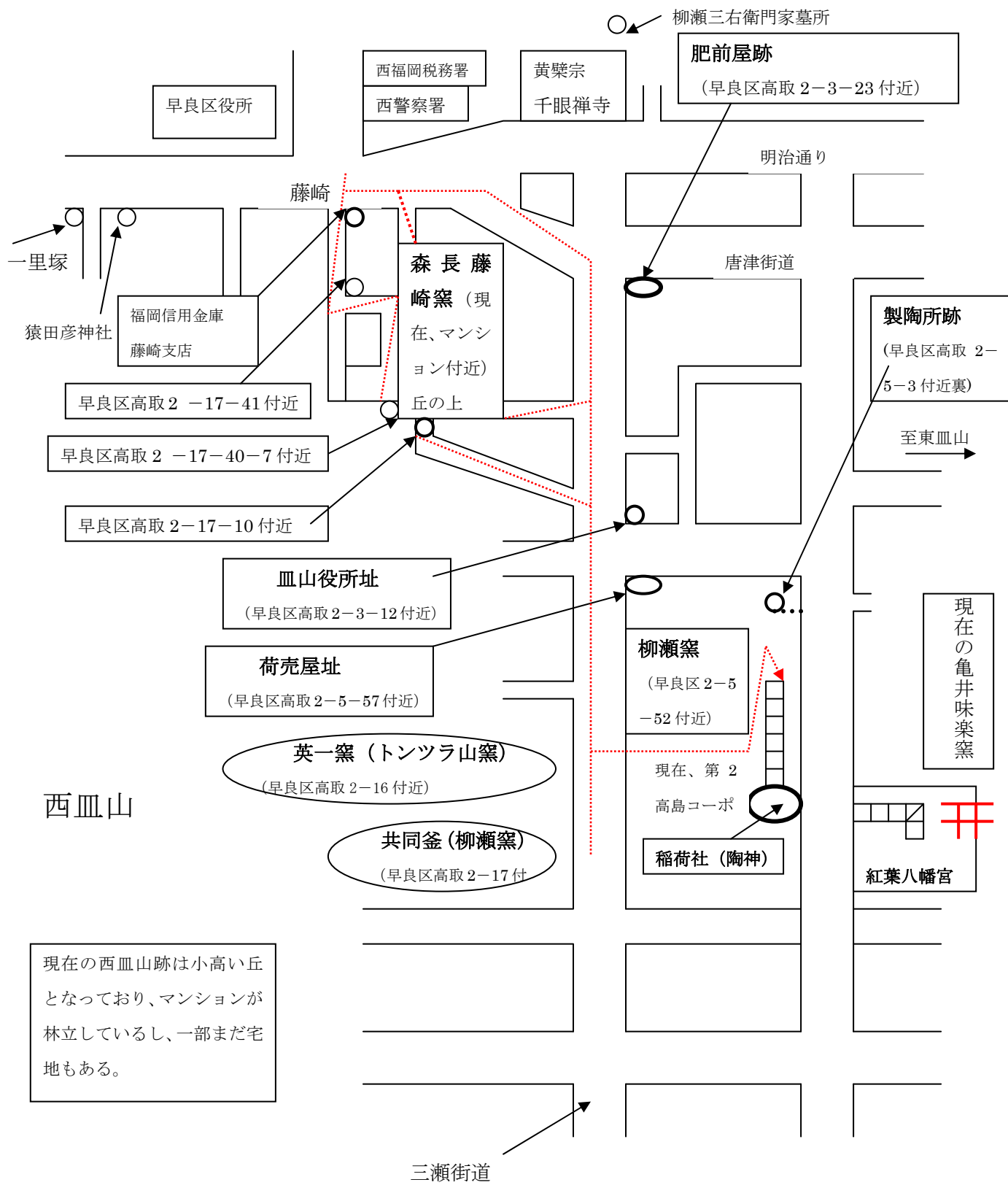
明治 33 年頃の福岡西新町皿山周辺^{注)}



注) 奥村武「高取焼と奥村次八郎」『荒津文化』第2号, 1967. に掲載の「明治35年頃福岡西新町皿山絵図」は6頁に禁転載となっているので、山口恵一郎他編集『日本図誌大系 九州I』朝倉書店, 1999. の96頁に掲載の福岡(明治33年測量)の地図と奥村次八郎氏作成の絵図等を参考に作成した。

この時期には、現在の明治通りは存在していません。現在の紅葉八幡宮は現在の西新パレス付近です。また、この時期には現在の味楽窯や紅葉八幡宮前の道路も存在していません。

平成 23 年の地図に明治 33 年頃の福岡西新町皿山周辺を重ね合わせた図





森長藤崎窯跡
(早良区高取 2 -17-40-7 付近)



森長藤崎窯跡
(早良区高取 2 -17-41 付近)



森長藤崎窯跡
(高取 2-17-10 付近)



肥前屋跡：旧三瀬街道起点
(高取 2-3-23 付近)



肥前屋跡
(高取 2-3-23 付近)



皿山役所跡 (左側) と荷売屋跡 (右側)
(高取 2-3-12 と高取 2-5-57)



英一窯跡 (奥) と共同釜跡 [柳瀬窯] 手前]
(高取 2-16 付近と高取 2-17 付近)



柳瀬窯跡
(高取 2-5-52 付近：左上)



稲荷社 [陶神]：山の大神
(高取 2-5 付近)



稲荷社 [陶神]：山の大神
(高取 2-5 付近)



大悲山 千眼禅寺 (黄檗宗)
(早良区百道 1-3-6)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



旧家
(高取 2-5-4、この北側小道裏に製陶品)



製陶所跡
(高取 2-5-3 付近裏)



船底橋



西應寺（月城跡）



講倫館高等学校（堀の内城跡）



松尾大善碑（次郎丸バス停前）



次郎丸旧道入口右側（旧三瀬街道）



次郎丸3丁目



次郎丸3丁目



次郎丸3丁目



次郎丸3丁目



次郎丸3丁目



次郎丸3丁目



旧道左側（次郎丸団地バス停前）



田交差点付近の旧道左側



田村3丁目



田村3丁目



田村 3 丁目



田村 3 丁目



田村 3 丁目



田村 3 丁目



旧道入口羽根戸道バス停付近 (四箇 1 丁目入口)



四箇 1 丁目



四箇 1 丁目



四箇 1 丁目



四箇 1 丁目



四箇 1 丁目と金武中学校の西にある松風橋



金武宿溝口の虹の風景



金武宿説明板 (筑前 24 宿のうちのひとつ)



金武宿



金武宿 (手前の白壁が元幾久鶴酒造場付近)



金武宿 (手前の白壁が元幾久鶴酒造場付近)



金武宿



金武宿



金武宿



西山地区集落



西山地区集落



妙見社



妙見社の絵馬



妙見社の絵馬



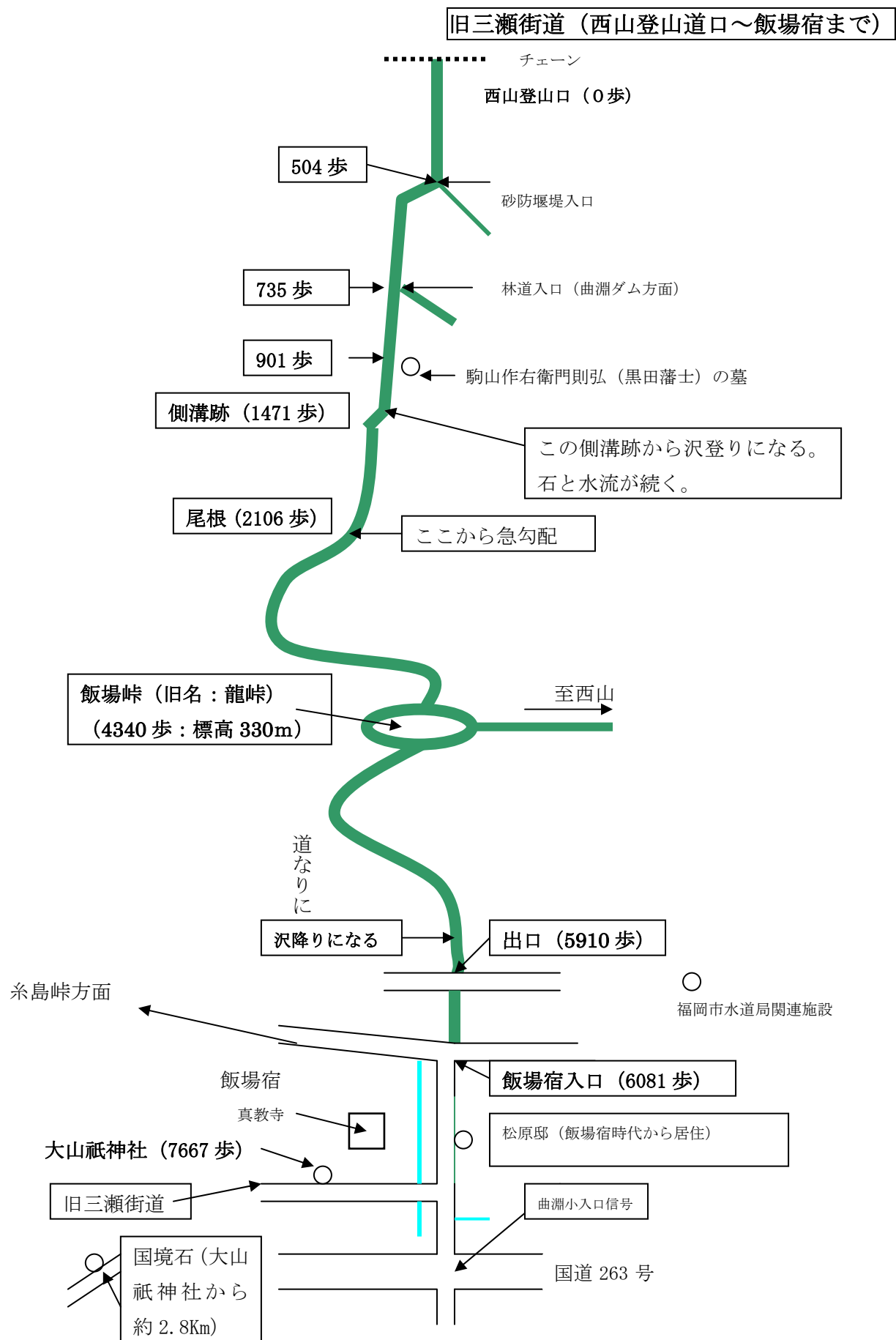
出雲大社屋形原教会



西山地区から福岡市街地遠望



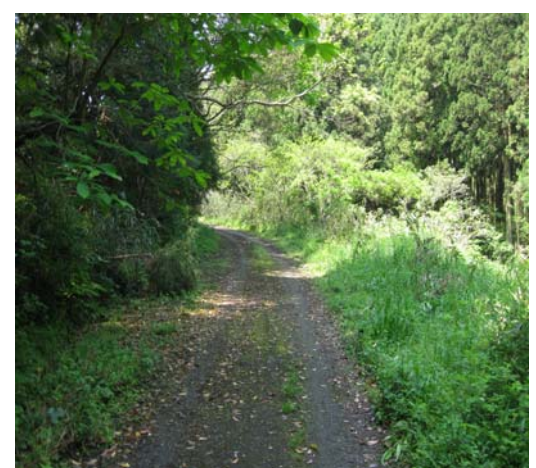
西山登山口方面（この先、飯場宿）



西山登山道入口 (県道 562 号
線: 飯場・金武線)



西山登山道入口から福岡市内遠望



登山道入口からすぐのところ



分岐 (左: 砂防堰堤方面、右: 旧三瀬街道)



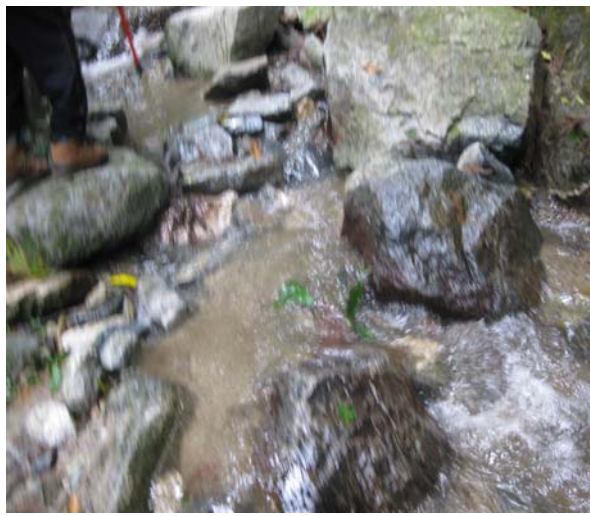
分岐手前の道



分岐 (左: 林道入口 (曲瀨ダム方面)、
右: 旧三瀬街道)



側溝跡: 旧三瀬街道



側溝跡から尾根までこの沢登りがつづく
(2013年9月に、「平群倶楽部」の方々より
登山し易いように沢の水流を変更してある)



尾根道



尾根道



飯場峠 (最高地点の標高: 382m、左:
西山方面)



飯場宿へ下り、この先急な沢降り
になる。



飯場宿側の登山道出口 (入
口) 手前



飯場宿側の登山道出口 (入口)、金網の
入口は福岡市水道水源かん養施設



県道 56 号線 (左: 糸島峠、右: 曲
瀨水源地)



県道 56 号線を渡り飯場宿側の入口



飯場宿



飯場宿：松原邸



飯場宿の旧三瀬街道にある大山祇神社



旧三瀬街道：上国境石方面



旧三瀬街道：三瀬峠（県境）



南肥前国、北筑前国の国境石（旧三瀬峠：佐賀に向かって右側の上）



南肥前国、北筑前国の国境石（旧三瀬峠）

2001年4月に初めて旧唐津街道の高取2丁目の旧三瀬街道起点から飯場峠越えて飯場宿まで歩いた。当時は写真撮影をせずにマイクロソフト社のワードによる作成の地図のみ作成した。その後、旧三瀬街道は高取焼跡、次郎丸の旧道および金武宿などの写真撮影をしている。2001年に飯場峠に関する写真がなく、2012年5月5日（土）に西山登山道入口から登山をし、旧三瀬街道飯場峠の撮影を試みた。2012年度は曲淵・飯場上の県道56号線は豪雨などによる崖崩れのため通行止めが続いており、また飯場峠の沢の増水と倒木のため、やむを得ず、尾根の手前までの撮影をおこない引き返した。2013年9月30日（月）の毎日新聞の朝刊に西区ボランティアグループ「平群（へぐり）倶楽部、金武校区まちづくり協議会、曲淵校区自治協議会」の方々が街道の枝を払い、倒木を切り、沢に飛び石および土嚢を設置、また案内標識を立てるなど街道の整備がなされたとの記事とともに、10月19日（土）に伊能忠敬測量200年（1813年10月22日から）講演会とウォーキングを実施されたので、それに参加（参加者104名）させていただいた。昨年、10年前とは異なり、驚くほど整備され通行しやすい旧街道に変わっていた。また、飯場峠から飯場に降る方向は木の伐採のため重機による整備が一部なされている。西山登山道入口から飯場宿大山祇神社まで、万歩計で6000～7000歩であるのでそれほど厳しい登山ではないと思われる。しかしながら、旧三瀬街道登山道は沢の昇り降りがあるのでそれに対応する装備が必要であると感じたし、また峠に近づくにつれて急勾配となっているので休息しながら登山することが必要である。なお、登山の写真は2012年5月と2013年10月のものである。

金武宿・飯場宿と旧三瀬街道の歴史的解説

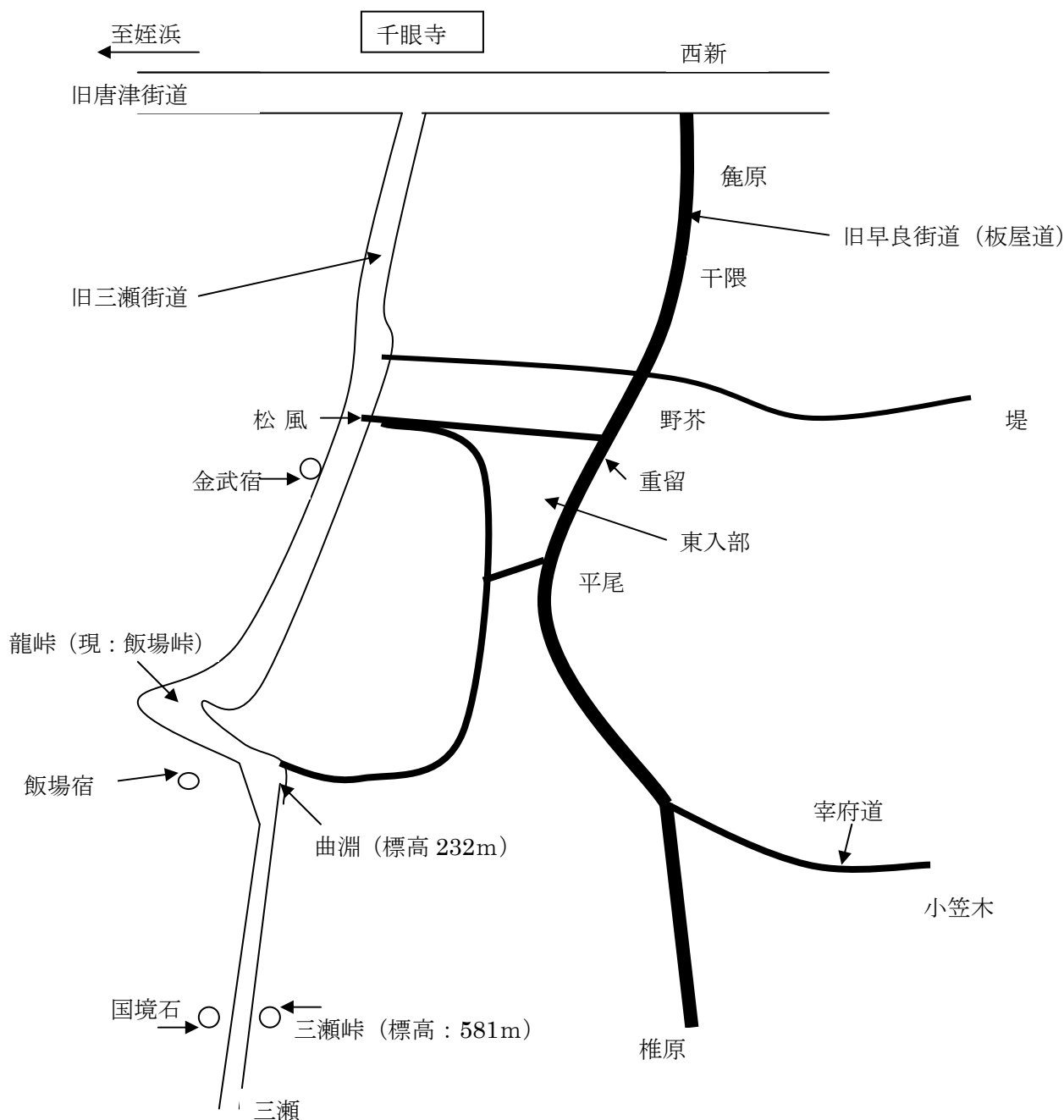
筑前の街道は「旧唐津街道」、「旧長崎街道」、「旧秋月街道」および「旧日田街道」が主要街道として有名であり、これらの街道は出版物で取り上げられ、またこれらの街道の一部の宿場町では現在「まちおこし」をおこなっている。筑前（近世中・後期の福岡藩領）は 21 宿（長崎街道の 6 宿を加えると 27 宿）があるが、筑前 21 宿のうち 2 宿（金武宿と飯場宿）がある「旧三瀬街道」については、地元住民でさえも宿場を持つ街道としての認知度をほとんどないように思われる。現在の『福岡市 都市圏 まちず』（2005 年）において、金武宿周辺の旧三瀬街道は県道 562 号線（飯場・金武線）として掲載されているが、一般県道と異なり、西山登山道口から直ぐ往くと廃道の状態となっており通行するには登山覚悟でつぎの宿場である飯場宿に往かなければならない。

「旧三瀬街道」とはどのような街道であったかという情報はほとんどない。わずかに伝承では「江戸時代は主として福岡から海産物を、佐賀からは米などを運ぶ主要な道として利用されていたということと、伊能忠敬がこの街道の測量をおこなったとの記述があり、2013 年 10 月 23 日が 200 年の記念にあたる。」ということである。そこで、以下に示す『早良郡志』、『筑前國續風土記』、『筑前國續風土記拾遺 下巻』、『筑前名所図会』および『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌（六）』に掲載されている旧三瀬金武宿、飯場峠および飯場宿の記述を掲載した。これらの記述で一番古い時代から見えてくることは「旧三瀬街道」が曲淵氏の家臣の時代からで、これから言えることは戦国時代（1500 年代）からこの道が開かれたとのことで、江戸時代になってから交通量が増えて重要な道となっていたと思われる。それは、江戸時代になり、この街道が佐賀への最短ルートでまた長崎街道へも通じているということ、他国の旅行者や飛脚などの通行が絶えなかったとのことである。そのようなことで、飯場宿が宿駅であっても山間部の小さい村であったために宿駅としての機能（人馬の調達など）を果たすことが出来ず、ついには寛政年間（1789～1801 年）に地元民の願い出によって通行が原則禁止となっている。しかしながら、歴史的な記述があるように地元民などの道としての役割を果たしていたものと思われる。それは金武宿には醸造関係の蔵がおおく存在し、金武から福岡に往く現在の次郎丸旧道入口には蹄鉄屋があった。

「旧三瀬街道」が決定的に現在のように廃道に近い状態になったのは、1923（大正 12）年に完成した曲淵ダムによって現在の 263 号線が整備され人の通行が安全になったことと、モータリゼーションの進行で運搬が楽になったことでこの街道の利用価値がなくなったと思われる。

早良郡 旧三瀬街道、旧唐津街道、旧早良街道（板屋道）関係図

明治・大正期（曲淵ダム建設前）



資料：福岡県早良郡役所編『早良郡志』名著出版、1973年2月。103頁より作成。

『早良郡志』による旧三瀬街道の記述

内野村に通じている県道は、金武村境の宇土峠より、飯場・曲淵を經由して三瀬峠を越えて、佐賀県神埼郡に通じている道である。この街道の龍峠は峻険のため、車場の交通が頗る困難であると住民が訴えている（295頁）。

宇土峠（岸の卵の峠）は曲淵から金武に通じている山道で、今はこの道を通る人は甚だ少ない。この峠は曲淵氏当時の家臣青木三郎右衛門が農業に励んで富み、家畜牛馬を96頭、農業従事者304人を使って、野芥・四箇・原などでそれぞれ8町の田地を耕すとともに、他の村にも多大の所有地を有していたということで、耕作のためや産物の運搬のためにこの道を開いて往来していたとの言い伝えがある（344頁）。

金武村には、四箇・丸・妙見崎・西山を経て、西南内野村に通じる三瀬県道がある（355頁）。

『筑前國續風土記』による旧三瀬街道の記述

金武村は福岡より約3里のところであって、三瀬越えで肥前に行く道にある。金武村から山を越えて1里半行くと、怡土郡飯場村に着く。飯場からまた山を越えて1里22町で三瀬に着く。金武の境内に立神山という高い山があって、この山には岩が多く存在している。金武から怡土郡河原村へゆく道があるが、この道には龍嶺がありこれを越えて河原村へゆくことになる（459頁）。

飯場は早良郡の金武から1里半の長い坂を越えて深谷の中にある村である。また、怡土郡河原村から飯場へ越える道もある。その間は32町ある。飯場村は谷の中にあるので田畠は少ない。村人は毎日薪芒を福岡に持って行って売っている。（中略）飯場は早良郡でなく怡土郡に属しており、この村から筑前の境まで1里、肥前の三瀬へは3里あって、佐賀に行く道である（495～496頁）。

『筑前國續風土記拾遺 下巻』による旧三瀬街道の記述

金武村は福岡から3里のところであり、龍峠を越えて飯場村へ、そして南山を越えて肥前国の三瀬宿へ到る佐嘉への大道である。白石は龍山（立神山であるが、今は龍山、龍谷、龍峠などという。古文書に聖福寺領龍山とあり、村の西南の山の総称）の谷のいたるところにある奇石である（220～221頁）。

飯場村は怡土郡の東南の隅に位置しており、山を隔てて早良郡曲淵村の谷上にある。ここは深山窮谷で、田圃は僅かに10町6反である。金武村より龍嶺を越えて1里12町でこの村へくることが出来る。この村は肥前国神埼郡三瀬村に通じている。杖立嶺（飯場村より1里、三瀬より1里近い、道の東は曲淵村に属している）をもって肥前の境としている（319頁）。

『筑前國續風土記付録 中巻』

金武村の西山に駒山助右衛門の長子作右衛門則弘の墓がある。作右衛門は1730（享保15年）4月西山の流された場所で亡くなっている。この場所は金武村から肥前国神埼郡三瀬村に往く道にある（438頁）。

『筑前名所図会』

金武は福岡から3里にあり、肥前三瀬へ越すための大道であって、ここを通ることを三瀬越えといっている。また、金武村に立神という高山がある（327頁）。

『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌（六）』

金武の西南に龍谷山があり、これを越えると怡土郡飯場村に通じ、そこから肥前国神埼郡三瀬村に往く往還がある。連峰に荒谷山がある。この荒谷山の谷中に白石（石灰岩）の奇石がある。それは怡土郡の水無原である（64頁）。

参考文献

アクロス福岡文化誌編纂委員会編『アクロス福岡文化誌1 街道と宿場町』海鳥社、2007年2月。

福岡市水道局『福岡市水道五十年史』1975年6月。

福岡県早良郡役所『早良郡志』名著出版、1973年2月。

福岡人文社『福岡市 都市圏 まちず』福岡人文社、2005年10月。

貝原益軒編・伊東尾四郎校訂『筑前國續風土記』文献出版、2001年6月。

青柳種信著・福岡古文書を読む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版、1993年6月。

加藤一純・鷹取周成共編・川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版、1977年12月。

三瀬村誌編纂委員会『三瀬村誌』三瀬村、1977年3月。

西日本文化協会編纂『福岡県史 近代史料編 福岡県地理全誌（六）』福岡県、1995年3月。

奥村玉蘭著・田坂大蔵・春日古文書を読む会校訂『筑前名所図会』文献出版、1985年12月。